

千葉市中央区千葉寺町の白井進さん(80)ら有志6人が戦争体験集「千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録—100人の証言」を編集し、出版した。終戦から64年が経過し、戦争を体験した世代の高齢化が進む。白井さんは「戦争を風化させたくない。今、出版しなければ、語り手がいなくなってしまう」と危機感を抱き、仲間と一緒に約1年間かけて体験集を製作した。

「風化させぬ」120人の戦争証言

千葉市大空襲は1945年6月10日と7月7日にあり、1000人近い市民が亡くなったとされる。千葉市育ちの白井さんは、大阪の陸軍幼年学校にいたため、空襲の被害を免れたが、終戦直後の千葉駅に降り立つと、県庁前まで焼け野原になり1軒の家もなくなくなっていたことに衝撃を受けたのを記憶しているという。

戦争体験は当初、100人から聞く予定だったが、取材を重ねるうちに増え、最終的には約120人の証言や遺稿を集めた。千葉市大空襲のほか、中国での従軍、疎開などの経験を語っている。

白井さんは「空襲を経験した人のほとんどは、家族を失っていた。中国では捕虜を殺害してしまったという証言もあり、編集しながら何度も涙を流した。若い人たちにもせひ、読んでほしい」と話している。

体験集は3000部製作。A4サイズ、342ページ。定価1000円。購入の問い合わせは編集委員の伊藤章夫さん(080・5305・3739)へ。

有志6人 千葉市大空襲や従軍…体験集に



戦争の記録100人の証言を製作した白井さん

京葉

支局] 千葉260-0013
 中央区 15 3
 中央4 225 2001
 043-225 2190
 x 225 2190
 はchiba@y